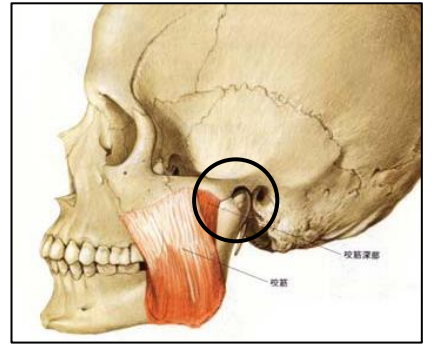


顎関節疾患とは

左図の○で囲んだ部分を顎関節といい、この部位に起こる関節の不具合を顎関節疾患といいます。

最も頻度が高いのは顎関節症です。耳のあたりからコキコキ音がする、口を開け閉めすると同部位が痛い、口が開かないといった症状がある方は顎関節症の可能性が高いです。

次に頻度が多いのは、顎関節の脱臼です。下顎が上顎骨の関節窩から外れて戻らなくなる状態です。この2つの顎関節疾患について詳細を記載しました。



顎関節症について

顎関節症はどの部位が原因になっているかによって次のように分類されます。

- I. 咀嚼筋の障害
- II. 関節包・靭帯障害
- III. 関節円板障害
 - a. 復位を伴うもの
 - b. 復位を伴わないもの
- IV. 変形性顎関節症
- V. I～IVに該当しないもの



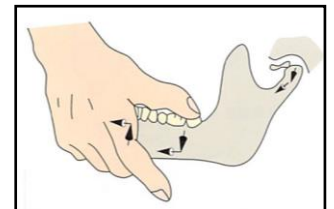
この中で圧倒的に多いのは、III関節円板障害です。コキコキ音がすることがある方はこれに当てはまります。

次に多いのは、I咀嚼筋の障害です。肩こり、こめかみの痛み、などが出現することがあります。

顎関節症の治療

第一に保存的治療として以下のようなことを行います。

- 1、理学療法
生活指導、頬づえ、うつぶせ寝、大開口、硬固物制限など。安静にすること。
- 2、物理療法
マイオモニター（低周波マッサージ）
温熱療法、赤外線療法
- 3、薬物療法
NSAIDs、中枢性筋弛緩薬、抗不安薬
- 4、スプリント療法
かみ合わせの補正
- 5、心身医学的療法
日常生活のストレス
- 6、補綴、矯正
かみ合わせの治療



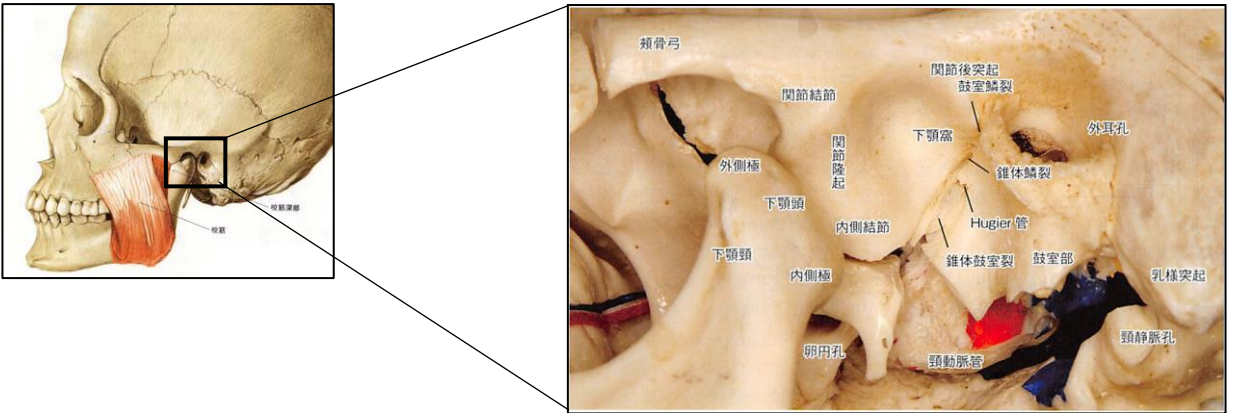
マニピュレーション



パンピング

保存的治療で改善することが多いですが、IIIb型の場合は、関節腔に注射をして洗浄して動きを良くするパンピングマニピュレーションを行います。

顎関節脱臼について



顎関節を拡大します。右の図は開口して下顎頭が前方に移動した状態です。この状態から元の位置に戻らないことを、「顎が外れた」状態、これを顎関節脱臼と言います。



顎が外れた状態になると、口を閉じることができません。

顎が動かないため、食事、会話もできませんのですぐに整復する必要があります。

整復するためには、図のように下顎骨に指をかけて、前下方に引っ張ります。

時間が経てば経つほど制服は難しくなるため、早期に整復することが必要です。

習慣性顎関節脱臼について

脳血管疾患後遺症による不随意的な下顎の開閉運動で関節の骨が平坦化して発症する。つまり、長期的に寝たきりになっている方に多いです。

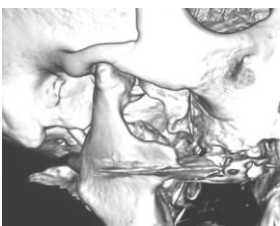


開口状態のまま放置されると、咀嚼もできませんし、誤嚥のリスクも高くなります。

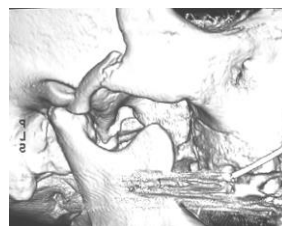
治療法には

1. 開口制限させる
2. 自己血を顎関節に注入する

などの保存的治療が先ずは行われますが、それでも繰り返す場合は手術で下顎頭が前方に移動しないようにするDautrey法を行っています。



術前の状態では、下顎頭が関節結節を超えている状態である。



術後、頬骨弓を障害物として下顎頭が前方移動しないようになる。